

研修報告書

1. はじめに

私は平成23年7月20日から8月8日まで、英語担当教員語学研修に参加した。7月19日に日本を発つ予定だったが、台風の影響により一日遅れとなった。次の日に無事ハワイに向けて出発できたので、ほっとした。

私がこの語学研修に応募した理由は、英語の指導技術を改善したかったこと、英語を聞く・話す・読む・書く技能を高めたかったこと、そしてハワイの文化を体験したかったことが挙げられる。ハワイに行く前、私はとてもわくわくしていたが、同時に心配でもあった。なぜなら、ハワイに行くのは初めてで、しかも海外で勉強するのも最初の体験だったため、この語学研修の目的を達成できないのではないかと思ったからである。しかし約3週間後、私は語学研修を充実したものにすることができた。

これからハワイでの経験から、学んだことや感じたことを書いていくことにする。

2. KCCで学んだこと

2.1 ハワイ大学 カピオラニコミュニティーカレッジ(KCC)

私は約3週間をカピオラニコミュニティーカレッジ(KCC)で過ごした。KCCはダイヤモンドヘッドの麓に位置している。キャンパスの中央には広大な芝生広場があり、その周りには多くの建物がある。それらの建物にはハワイの植物にちなんだ名前が付けられている。私は毎朝バス停からカフェテリアに行く途中のサボテン庭園を楽しんだ。そのような美しい大学で英語が勉強できることをとても幸せに思った。

2.2 英語教授法

私たちはCBI(内容中心教授法)についてMalm教授から学んだ。Malm教授はこの語学研修の主担当の先生である。私はこの研修に来る前、CBIとは何かを知らなかった。CBIは第2言語習得に重要な教授法である。私がESOL(外国語としての英語)の授業を参観した時、とても印象に残ったことがあった。生徒は市民権について自分のコンセプトマップを作り、3人組のグループの中で発表し、その後グループで新しいマップを作っていた。他の授業では、生徒が3人組のグループでスローフードについてのポスターを作っていたのだが、彼らはすでにスローフードに関連した語彙やいくつかの話題について学習しており、スローフードの利点やなぜファーストフードよりもいいのかについてポスターに書き、その後ポスターセッションをした。それぞれのグループの発表者はみんなの前で堂々とスローフードについて発表していた。

CBIでは、教師はあるテーマを決め、テーマに関わる多くの教材を準備し、生徒に教える。生徒はわからない語彙や文法を理解しようとする。生徒が理解できない時は教師がヒントを与える。生徒がコンセプトマップやポスターを作ったり、聴衆を前にして発表する間、教師は生徒にフィードバックを与える。私は1年を通して授業にCBIを取り入れるのは難しいが、ポスターセッションをしてみたい。また、英語を書いたり話したりする活動において、多くのフィードバックを生徒

にしていきたい。

私はまた、どのようにして生徒に英語を勉強する動機付けをしていくかと、どのようにして効果的に話すこと・聞くこと・読むこと・書くことを教えるかについて、Malm 教授と Dudzik 教授から学んだ。その時、いつもハワイに来る前にしていた教授方法を振り返り、その後で教授が英語の教授方法の改善案を教えてくれた。

2.3 教育哲学

「教育哲学」は私にとってとても難しい話題だった。インターネットのサイト「ANNIKER I S・・・生徒，教員，保護者のための研究(2010)」によると、「教育哲学とは，専門的实践に導く中心的な信念・価値基準の記述」とある。教育哲学を書く際，心にとめておく12の質問があり，それらに関連させて教育哲学を書き始めた。私は「なぜ私は教えるのか。」「教師として私には何ができるか。」「学校の教育目標を達成するために何ができるか。」について書いた。教育哲学を書くことは私にとって教師としてのキャリアを振り返る機会となった。

2.4 研究レポート

私はこの語学研修のまとめとして研究レポートを書いた。今回が英語で書く2回目の研究レポートであった。初めて英語で研究レポートを書いたのは約20年前だった。だからレポートを書くのは私にとってとても難しいことだった。しかし，Malm 教授と Dudzik 教授からたくさんのフィードバックをもらい，研究レポートを書き終えることができた。

私の研究レポートのテーマは「動機を高めるための読むことの指導の方法」とした。昨年度は中学校3年生を担当していたが，3学期に，読むことに関する問題に答えるのが難しいことが分かった。生徒になぜ答えられないのか尋ねると，2種類の理由があった。1つはたくさんの分からない単語があるから，理解するのに時間がかかるからだった。もう1つは英語を読もうとせず，すぐにあきらめるからだった。私は長い間この問題について悩んでいた。

この語学研修で，日本のようなEFL（外国語としての英語）の状況で英語を勉強するには，動機付けはとても重要であることが分かった。私は生徒に英語を勉強させるような動機付けができていただろうか。私は3学期の終わりにはいつも教科書を終わることを意識していた。だから私の授業は生徒にとって退屈だったかもしれない。私はまた，読むことを教えるための方法も学んだ。この研究レポートでは，英語を勉強するための動機付け，読むことの定義，読むことを教える際の効果的な方法について書き，生徒が教科書の本文の意味が理解できるようにするような指導案を作った。次の学期から私はその指導案を授業で実践してみて，効果を検証してみたい。

2.5 プレゼンテーション

私はこの語学研修のまとめとして研究レポートについてのプレゼンテーションをした。しかし，聴衆の前で英語を話すことは私にとって大変な課題であった。私は原稿なしで話さなければならなかった。Malm 教授は「プレゼンテーションをする時は視線を聴衆に向けるのがいいよ。プレゼンテーションがインタラクティブになるよ。」と言ってくれた。最初は何を言いたいのか思い出せずによくスピーチが止まった。しかし Malm 教授は励ましてくれ，アドバイスをしてくれた。教授はプレゼンテーションの最初がとても重要であることを強調していた。私は夜，ホテルの部屋で何回も練習した。8月5日の朝，小寺先生と私はついにプレゼンテーションを行った。多くのゲストが私

たちのプレゼンテーションを見にきた。私はとても緊張したが、自信をもってプレゼンテーションをすることができた。なぜなら聴衆がプレゼンテーションをしている時、よくうなずいてくれたり、私を励ましてくれたりしたからだ。だからとてもうれしく思った。このプレゼンテーションを通して、パワーポイントを使って話す時の多くの重要なポイントを学んだ。

2.6 模擬授業

私は Malm 教授や Dudzuk 教授が教えてくれた教授法に基づいて指導案を作った。8月5日の夜、私たちは指導案からいくつかアクティビティを紹介し、アイデアを共有した。私の指導案では、生徒がすでに学んだ文法事項を復習し、教科書の本文の意味を理解させるようにした。また2種類のワークシートを作った。1つは比較級と最上級の練習のためのもので、もう1つは本文の意味の理解のためのものであった。アクティビティを紹介した後、Malm 教授と小寺先生からアドバイスをもらった。

3. ハワイ州教育委員会訪問

7月25日に私たちはハワイ州教育委員会を訪問し、ハワイ州公教育のあらましについて学んだ。ハワイでは子どもたちが高度な学力を身に付けるために、多くの親はわが子を私立学校に入学させようとする。だからハワイでは私立学校は人気がある。反対に、公立学校は深刻な問題を抱えている（生徒のふるまいや学力、教師の質）。教育委員会はこれらの問題について取り組もうとしている。

4. ホームステイ

7月29日から31日までの間、ホームステイをした。私のホストファミリーは、カイルアという町に住んでいた。カイルアはオアフ島の東側にあり、バラク・オバマアメリカ大統領はカイルアを好み、以前クリスマスと新年の休暇に家族とともに過ごしたそうである。私のホストマザーは67歳で、いつもは一人で住んでいる。しかし、オレゴン州に住んでいる大学生の孫が夏休みの間彼女と滞在していた。彼女は沖縄人で両親も祖父母も沖縄人だった。彼女はさまざまな職歴のある女性で、アメリカ本土の小学校の先生として働いていたり、日本の英会話学校で働いていたりしていた。最近では私立学校の校長先生をしていた。彼女は大変社交的で、よく家族のことや仕事のこと、沖縄のことを話してくれた。

金曜日の夜、ホストマザーはハワイ料理（ラウラウとカルーア・ピッグ）を作ってくれた。夕食後、パイナップルとパパイアの切り方を見せてくれた。土曜日には、別の孫の誕生日会をアラモアナビーチでするということで、孫と共に朝早く家を出て、パーティーの支度をした。彼女の息子とその家族、彼女の娘とその家族と友だちがビーチにやって来て、ランチを食べたり、会話や海を泳いだりして楽しんだ。午後、ホストマザーは友だちの葬式に出席しなければならなかったが、彼女は私に葬式に一緒に行くことを勧め、私も出席することにした。日本の葬式とハワイの葬式ではたくさんの違いがあった。例えば、出席者は黒いスーツやドレスを着ていなかった。日本の葬式は悲しい雰囲気だけど、ハワイの葬式はふつう明るいとホストマザーは教えてくれた。家に帰る途中、彼女はパリ展望台とカイルアビーチに連れていてくれた。日曜日には教会とフリーマーケットに行った。教会では日本語の集会に参加し、歌を歌ったり、説教を聞いたりした。フリーマーケットはアロハスタジアムで開催されていて、周りにはたくさんの露店があった。露店では食べ物やアクセサ

リーやTシャツなどが販売されていたが、とても安かったので私はおみやげにたくさん買った。私はホストマザーとその親戚たちと素敵な時間を過ごした。そしてハワイの生活様式を体験することができた。彼女のおかげで、私は授業でハワイの生活について多くのことを生徒に話すことができる。日本に戻っても彼女と連絡を取ってつながっていきたい。

5. フィールドトリップ

私たちは Malm 教授とプランテーションビレッジとビショップミュージアムを訪問した。プランテーションビレッジでは、ハワイへの移民の歴史について学んだ。そこでは移民が育てた植物や再現された建物や他の展示品を見た。そこで私はなぜハワイは多民族の地域なのかが理解できた。多くの国々から来た多くの人々が農場や工場で働くためにハワイに移民し、そこで助け合い、新たなコミュニティを作っている。

ビショップミュージアムでは、ハワイ王国の歴史について学んだ。展示を見た後、フラダンスの講座に参加したが、それぞれの動作に意味があることがわかった。フラダンスは身振り言語のようなものだった。フラダンスを踊ることは私には難しいことだったが、同時に貴重な経験だった。フィールドトリップを通してハワイの歴史にますます興味をもてた。

6. まとめ

ハワイ滞在の初日は語学研修の目的が達成できるのか心配であった。教授が言っていることがよく理解できなかつたり、教授が私に質問をしても、言いたいことがまとまらずに流暢に答えることができなかつたりした。しかし、教授たちや語学研修と一緒に参加している小寺先生に助けてもらい、だんだんと講義の内容が理解できるようになった。また、英語の記事を読むことにもだんだんと慣れてきた。英語教師にとって英語の力を上達させたり、教える技能を伸ばしたりするためには外国で勉強することが大切だと私は思う。私はハワイで自分の英語の力や教える技能、ハワイの生活様式、周りにいる人たちのことを日本や家族と離れることで十分考えることができた。Malm 教授や Dudzik 教授、コーディネーターの Tsurutani 教授や他の K C C の職員が私たちを支え、私たちに好意的に話しかけてくれた。K C C の職員である Gaston さんはいつも私たちのことを気にかけて、日本人の奥さんとともにレストランや K C C のファーマーズマーケットや国軍墓地に連れて行ってくださった。また、ハワイに住んでいる小寺先生の叔父が夕食に招待してくださったり、タンタラスの丘に連れて行ってくださったりした。タンタラスの丘は夜景で有名で、とてもきれいだった。

ホテルでの修了式で私たちは修了証を手にした。Tsurutani 教授は「君たちはこれからは K C C のオハナの一員だ。」と言ってくれた。オハナとはハワイで「家族」という意味である。私はとてもうれしく思い、もう少しハワイに滞在したいと思った。ハワイで出会った人たちはいつもとても親切で、常に心を開き、私たちを受け入れてくれた。私もハワイの人たちのように生徒と接していこうと思った。

最後に、今回の研修の機会を与えていただいた広島県教育委員会をはじめ、K C C の職員の方々、そしてハワイで出会い、お世話になったすべての人たちに心から感謝したい。